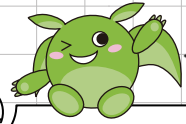


イマドキ！幼児・小学生の英語事情

「子どもに習わせたい習い事」「大人になってから始めた習い事」「習っておきたかった習い事」どのランキングでも上位にランクインの「英会話」。そこでイマドキの英語事情を株式会社ハグカムの草刈良介さんにインタビューしました。

答えてくれたのはこの方だよ！



子ども向けオンラインスクールを運営する
株式会社ハグカム
営業本部 本部長 草刈 良介

質問 1

英語が話せないと困る時代がすぐそこまでやってきていると聞きました。私は英語が話せないけれどそこまで困る経験をしていなくて。子どもには英語を早くから習わせた方がよいのでしょうか？



ガウディア本部ママ社員 さかくち

ご質問をいただきありがとうございます。
結論から申し上げますと、子どもの認知能力が備わったら（日本語と英語の区別がつくような状態になったら）「英語は早くから習わせた方が良い」です。個人差もありますが、大体4～5歳以降でしょうか。
現在の日本においては、英語を使いこなせる人の方がマイノリティーなので、「英語が話せないと困る時代がくる」と言われてもなかなかピンとこないですよね。
ところが、2014年に文部科学省で行われた有識者会議では、様々な要因から、今の子どもたちが社会で活躍するであろう2050年頃には外国語を使う機会が格段に増える（＝英語が話せないと困る）ということが話されています。

質問 2

小学校でも英語が必修化されたようですが、小学校の勉強だけでは足りないのでしょうか？
私も学校での英語の成績は悪くはなかったけれど結局話せるようにはなっていないのです。

草刈さん、ありがとうございました。日本は少子高齢化で外国の方と協働していく時代になりつつあります。誰とでもコミュニケーションができるように準備してあげるのがよさそうですね。



私たち保護者世代も学校のテストや受験に伴って英語を勉強してきたわけですが、筆記試験で得点をとることと英語を使いこなせるようになる（＝話せるようになる）ことはほとんど結びついていませんでした。現に、東京大学に代表されるような旧帝国大学を卒業していても、実に9割以上の方が「自信を持ってビジネス英語を話すことができない」と回答している調査結果があるくらいです。公教育の場でも学習指導要領の改訂や東京都でのスピーキングテストの導入・入試活用など「聞く・話す」能力開発に向けた動きが加速しています。ただ、公教育では環境面の整備などの課題も多く、なかなか思うような変化をしきれていないというのも実状です。特に時間の面で、一般的な外国語習得にかかる時間が約3,000時間とされているのに対して、公教育で2020年から新たに設けられた外国語活動の時間（小3～小4）が合計70時間のみとなっていて、なかなか難しい状況が見て取れます。従って、学習時間の確保という意味合いでも、日本語の習得を阻害しない範囲で「英語は早くから習わせた方が良い」という結論になるのです。2023年4月に行われた全国学力テストの結果からは、英語を「話す」能力について、既に二極化の兆候も見えてきています。すぐそこに迫る「英語が話せないと困る時代」に向けて、お子様には早くから英語に触れる機会を提供してあげてほしいことをおすすめします。

ガウディアからの問題にチャレンジ！

Q. ツカたちがどこにすわっているかわかるかな？

ぼくはだいすきなメロンのところ！



ぼくもメロンがすきだからツカのみぎにいますよ



わたしはエルのまえ♪



ぼくのみぎにはチカがいるよ。とてもなかよしなんだ♪



《1年生相当「おもしろ算数」より改題》

ガウディア Information

春キャンペーン

4月30日（火）まで春の体験学習を実施します。お友達をお誘い合わせのうえ、ぜひご参加ください。



ガウディアの「英語」

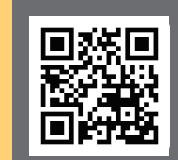
英文法が中心だったこれまでの教育とは全く異なる「話す」をメインとした世界で通用する英会話を楽しく学べるのがガウディアの「英語」です。
※英語は実施していない教室があります。



公式 SNS



Instagram



X



みんなわかったかな？

答え

メロン … ツカ
りんご … チカ
みかん … コリン
すいか … エル